

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 (松阪あゆみ特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		自立と共生 ～地域で豊かに生きる子どもを育てます～
(2)	育みたい 児童生徒像	4 H (児童生徒の力) ・HEALTH (すこやかな体) ・HEAD (まなびいかす力) ・HEART (おもいやる心) ・HOPE (ゆたかな希望)
	ありたい 教職員像	4 W (教職員の取組) ・HEARTWORK (心に寄り添う指導) ・TEAMWORK (確かな協働) ・FOOTWORK (率先した行動) ・NETWORK (地域との連携)

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒> 学校卒業後の社会参加に必要な力を育む教育の提供</p> <p><保護者> 一人一人の障がい理解と確かな教育の展開、社会に対する障がい者理解につながる様々な啓発活動</p> <p><関係機関・地域> 関係会議への積極的な参加や進路等に関する情報提供をする中での強固な連携、様々な活動の報告や物品販売、学校開放等の機会を通じて地域への理解を図る</p> <p><各学校等> 松阪市・多気郡地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> 子どもの自己実現をめざすうえでの一番の理解者としての相談相手や支援協力者であってほしい</p> <p><各関係機関> この地域の特別支援教育全般の牽引的役割を果たしてほしい</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> 情報共有を密にし、共通理解したうえで「個別の教育計画・指導計画」を共に作成し子どもの成長につなげていくことへの理解と協力を求める</p> <p><各関係機関> 子どもにとってより良い環境を確立するため強固な連携関係を築きたい</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、日々地域の学校の支援や研鑽を重ねていることを、保護者等知ってもらえるとよい。 ・学校での多種多様な取組を、より合理的で教職員の負担感のないものになるよう、試行錯誤をしていくとよい。 ・新型コロナウイルス感染防止対策等で、教職員は今までにない神経を使っていると思われる。教職員が精神的ストレスを溜めることのないように、対応の充実を望みたい。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・J☆sKeps を新たに加えたアセスメント・ICT活用については、全教員が全児童生徒に対して実施することができた。今後、アセスメントの結果を日々の教育活動にいっそう活かすこと、ICTをより効果的に活用することが必要である。 ・授業改善については、全教員が同時に授業をしており授業を参観しての授業研究が困難であるため、研修方法を工夫し、教員同士が日常的に授業力を向上し合うしくみを構築していきたい。 ・「授業改善」、「アセスメント」、「ICT活用」の取組が有機的に結びつき、全体として児童生徒への効果的な支援・指導につなげたい。 ・安全・安心な学校生活については、今後も、起こりうる様々な危機を想定し、いざという時に教職員一人一人が主体的に組織的に動くことができるよう訓練を重ねるとともに、児童生徒にも自らの身を守るための力をつけるべく、発達段階に応じた指導と適時適切な訓練が必要である。

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の取組として、従来、集合研修会として実施していた「あゆみ座談会」を、オンラインで、一人一人の教員に対して個別具体的な支援を行った。また、地域の学校への巡回相談においては、巡回当日で終わりせず、後日書面でも助言を行った例もあった。これらの新たな取組は、地域の学校から好評で、今後も続けていきたい。 ・「トコトコネットワーク」の具体的な協力場面の設定では、今年度スタディサポーターの授業支援を多く受けられた。今後も、多方面でご協力を仰ぎ、地域とともに児童生徒の成長を支援していきたい。 ・「トコトコネットワーク」のみならず、本校の取組を地域に発信することで、児童生徒の頑張りを地域に知っていただき、地域からの信頼を得て児童生徒のよりよい支援につなげることも必要である。 ・教職員の働き方改革については、進んでいないのが現状である。児童生徒へのより充実した支援・指導のためにも、業務にメリハリをつける必要があり、さらなる見直しをしていきたい。
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育システム」を活用して児童生徒一人一人の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をより一層充実させ、児童生徒により効果的な支援を行う。 2. 安全・安心な学校生活 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の命と安全を守る学習や訓練を継続して行い、安全・安心な学校生活を保障する。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育を牽引する役割 <ul style="list-style-type: none"> ・この地域における特別支援学校としてのセンター的役割を果たす。 ・人権意識を高く持ち、地域と深くかかわる中で情報を発信する。 2. 信頼される学校 <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの向上に努め、保護者、地域等との信頼関係を築く。 3. 働きやすい職場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・運営組織の中で全教職員が自分の役割を十分果たす。 ・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実した毎日を過ごせるよう、情報共有する時間や環境を整備するとともに、効率よい会議運営を行うなど、働きやすい職場づくりを目指す。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 教育活動の充実	<p>(1) 学校教育目標達成に向けて、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を行う。</p> <p>○アセスメント等により把握した児童生徒の現状・課題・可能性や願いを授業計画に反映する。</p> <p>○小学部・中学部・高等部の教員による小グループでの授業研究を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①小グループでの授業研究 年間4回実施</p> <p>②アセスメントの反映方法の検証、授業研究の成果と課題の整理（年度末）</p>	<p>(1)</p> <p>①6月・11月・1月・2月実施</p> <p>②アセスメントの活用例として6回のケース検討会を実施。デスクネットにて全教職員に共有した。反映方法については次年度継続して検討する必要がある。授業研究においては、知的障がい教育における「対話」「深い学び」の姿について議論を深められたことが成果である。また、言語による対話が困難な児童生徒について、ICTなどを活用して支</p>	◎

<p>2. 安全・安心な学校生活</p>	<p>(2) 授業等においてICTを活用し、効果的な支援・指導を行う。 ○活用事例をデスクネッツで共有し、支援・指導に活かす。 【成果指標】 ①活用事例の共有 年間30例以上 ②活用事例集の作成(年度末)</p> <p>(3) 総合的・客観的に児童生徒の教育的ニーズを把握して支援・指導に活かすための「アセスメントシステム」を構築する。 ○アセスメントツールを利用した、児童生徒の総合的・客観的な教育的ニーズの把握を行う。 【活動指標】 ①全担任による「J☆sKeys」の実施 ②支援部担当教員によるアセスメントの実施 ③「アセスメントシステム」の、「個別の教育システム」及び授業等への反映と活用、効果についての検証(年度末)</p> <p>(1) 自分及び他者の命と存在を大切にし、それらを守るために自ら行動する力を養う学習を行う。 ○人権教育カリキュラムに基づいた学習を実施する。 【活動指標】 ①ピンクシャツデーのメッセージ参加 230人以上 ②性に関する学習の実施 各学部1回以上</p> <p>(2) 危機発生時等における児童生徒の命と安全を守るための学習及び訓練を行う。 【活動指標】 ①地震・火災等の避難訓練の実施 5回 ②災害伝言ダイヤル体験活用度 各回60%以上 ③不審者侵入時の対応訓練の実施 ④交通安全に関する講習の実施 各学部年間1回以上 ⑤教職員対象の救急救命講習の実施</p>	<p>援を工夫し、児童生徒一人一人にとっての「対話」の姿を考え、「深い学び」につなげていく必要がある。</p> <p>(2) ①25例 ②公開授業(12月)時作成、見学者に配付</p> <p>(3) ①6月実施 ②小学部1・4年、中学部1年、高等部1年で実施。 ③「個別の教育システム」及び授業への反映と活用等については、次年度継続して検討する必要がある。</p> <p>(1) ①226人 ②高等部11月実施 小・中学部未実施</p> <p>(2) ①避難訓練5月・9月・2月実施 下校時訓練7月・11月実施 ②6月60.85% 9月61.45% ③7月実施 ④小学部7月・11月実施 中学部・高等部5月実施 ⑤8月実施</p>
----------------------	--	---

改善課題

1. 教育活動の充実

『主体的、対話的で深い学び』の視点からの授業実践をテーマとして、学部縦割りの小グループによる研修を行い、本校児童生徒の「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業実践について、考えを深めた。今後も、児童生徒の実態を的確に把握し、つきたい力を共有して授業を計画し、ICT等を有効に活用して授業実践を行い、

児童生徒の成長につなげるべく、研鑽を積んでいきたい。

2. 安全・安心な学校生活

児童生徒が、互いに存在を尊重し合い、皆が安心して暮らすことができる社会を形成できるよう、引き続き人権教育に取り組む必要がある。

本校の児童生徒にとって、予想できない状況に置かれたときに自分の身を守る方法を身につけることは、大変重要である。効果的に訓練を実施し、児童生徒の命を守る取組を継続していく必要がある。

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 特別支援教育を牽引する役割	<p>(1) 地域支援として巡回相談、電話相談、体験研修、夏季講座等を実施するとともに、小・中・高等学校の教員がより相談しやすく、個々のケースに対応した支援を行うことが可能な相談形態を定着させる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①「あゆみなんでも相談会」の実施</p> <p>(2) 地域において本校の教育活動への理解と協力を仰ぎ、地域の中で児童生徒が豊かに生きるための支援につなげる。</p> <p>○「トコトコネットワーク」の加入募集を行う。</p> <p>○地域での作品展示を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①「トコトコネットワーク」新規加入 個人5件以上、企業等団体10組織以上</p> <p>【活動指標】</p> <p>②百五銀行、JR多気駅での作品展示</p>	<p>(1) ①6月 5回実施</p> <p>(2) ①個人5件 団体0組織</p> <p>②百五銀行作品展示実施 5月、10月 JR多気駅作品展示実施 8月</p>	
2. 信頼される学校	<p>(1) 児童生徒、保護者、関係機関、地域の人々等との信頼関係を築き、児童生徒へのよりよい支援につなげる。</p> <p>○教職員意識調査「あゆみチェック」の結果を教職員全員で共有し、課題について検討し改善を図る。</p> <p>○学校の取組について、ホームページや報道提供により情報発信する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①「あゆみチェック」の結果においてコンプライアンスを常に意識している教職員の割合 100%</p> <p>②コンプライアンスミーティングの実施 年2回</p> <p>③ホームページの更新 年12回以上 報道提供 3回以上</p>	<p>(1) ①5月 95.3% 11月 98.2%</p> <p>②8月・12月・1月実施</p> <p>③46回 新聞掲載4件</p>	◎
3. 働きやすい職場づくり	<p>(1) 教職員一人一人が健康で、充実感をもちながら教育活動を行うことができる環境をつくる。</p>		※

	<p>【活動指標】</p> <p>①「ノー会議、ノー残業デー」設定日の達成率 90%以上</p> <p>②定例職員会議の1時間以内の終了 90%以上</p> <p>【成果指標】</p> <p>③時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人</p> <p>④時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人</p> <p>⑤1人当たりの月平均時間外在校等時間 15時間以下</p> <p>⑥1人当たりの年間休暇取得日数 10日以上</p>	<p>(1) ①86.4%</p> <p>②88.0%</p> <p>③1人</p> <p>④8人</p> <p>⑤6.4時間</p> <p>⑥17.6日</p>	※
--	---	---	---

改善課題

1. 特別支援教育を牽引する役割

「あゆみなんでも相談会」は、放課後、オンラインを使って1対1で相手校の相談を受ける内容であるため、相手のニーズに合わせた支援ができており、今後も継続していきたい。

「トコトコネットワーク」については、これまでに加入いただいた個人や企業から多く助けていただいているが、今年度は加入が少なかったため、今後もいっそう協力を依頼していきたい。

2. 信頼される学校

これまでの学部別のブログに加え、今年度は、学校全体の取組も積極的にホームページで情報発信を行った。ただし、報道提供を積極的に行うことができなかつたことが課題である。

3. 働きやすい職場づくり

業務量や各種対応などにより、時間外在校時間の減少が困難である状況が続いている。今後も、業務内容やその量についてさらなる検討が必要である。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>地域の中で児童生徒が豊かに生きる支援のあり方として、トコトコネットワークの取組は大変有効的であるが、加入者が少ないのが課題である。広報の仕方を工夫し、具体的には、地域の施設等に作品展示をしたときやイベントに参加した際に資料を置いて見てもらえる環境を設定したり、実際に説明する場面を作ったりすることで加入者を増やすことができる。</p>
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>・児童生徒の実態を的確に把握し、つきたい力を共有しながら授業を計画し、ICT等を有効に活用して授業実践を行い、児童生徒の成長を話し合い、分析し合える研修のあり方を考えていく。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>・「トコトコネットワーク」の協力依頼や、学校の取組についての情報発信、カフェトコトコの外部開放等を通じて、学校への理解を促進し、地域とともに児童生徒を育てていく環境をつかっていく。</p> <p>・時間外在校時間の縮減に向けて、各部、各分掌を中心に業務内容の精選を随時行い記録に残しながら、仕事の見える化、スリム化を図っていく。</p>